

「向こうの村へ行きなさい。そうすればすぐに、ろばがつかれていて、一緒に子ろばがいるのに気がつくでしょう。それをほどこいて、わたしのところに連れて来なさい。もしだれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐに渡してくれませう。」

マタイの福音書 21章2～3節

イエス様はいよいよ十字架を目前にした最後の一週間に入ります。受難を前にしたイエス様の胸中はいかばかりだったでしょう。そんな大切な場面でイエス様が用いたのは子ろばでした。

イエス様はこの世の小さな存在を用いられます。見た目からすれば、人々の前に映えるのは馬に乗ることでしょう。しかし、イエス様を選んだのは子ろばでした。黙示録によれば再臨の主は白い馬に乗ります。けれども、今の世において主が用いるのはこの世の小さな存在です。人々が目もくれない

ものをイエス様は御許に招いて用います。

私たちは自分の弱さや乏しさに悩み嘆くことがあります。しかしそれは問題ではありません。イエス様はそんな私たちを用いてくださるからです。

では、イエス様はどうして小さなものを用いるのでしょうか。それは、人々の目を覚まさせるためです。「子ろば」はヘブル語でアイルです。それに関連した動詞形のウールは「目を覚ます」という意味を持ちます。

イエス様を迎えた群衆は、自分たちの願望を押しつけてイエス様を世的な王として理

解しました(9)。そんな人々の目を覚まさせるために子ろばを用いたのです。小さなものが人をハッとさせるということは間々あることです。イエス様はこの世の小さなものを用いて、世の価値観に捕らわれる人々に霊の世界の価値観を示します。

そして、人々に最も見せようとしたのが柔和な王としての姿です。「柔和」のヘブル語はアーニーで「貧しい、哀れな、悩み多い、へりくだった」という意味も含まれます。それはまさに十字架のイエス様です。その姿を表すためにイエス様は子ろばに乗りしました

(5)。私たちの罪を贖うためにイエス様はまさに小さな者となってくださいました。だからこの世の小さな者がキリストを指し示すのです。あなたは神の前に大きな者ですか？ 小さな者ですか？ (泰)

■教会財政のためにお祈りください

日頃の皆さまの尊い献金と教会財政のためのお祈りを感謝致します。

本日は会計報告もお配りしています。

教会の財政は兄弟姉妹の献金によって支えられています。コロナ禍で集まらない中でも兄弟姉妹が献金を送ってくださいることは本当に大きな力です。重ねて感謝申し上げます。

---